

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102997
法人名	医療法人岡本医院
事業所名	グループホームみつはま
所在地	愛媛県松山市住吉2丁目2番21号
自己評価作成日	平成28年6月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームみつはまは、“いつも一緒、同じ屋根の下で、心と心で行きましょう”…をスローガンに入居者の方々とスタッフが、仲良く助け合っていく事を大切に努めています。母体は岡本医院であり、看取りのケアを行っています。ご本人、家族のかたがたの思いを大切にサポートさせていただいております。24時間往診可能であり、皆さん先生を信頼し、安心して生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「母体医院が運営する医療的なグループホーム」であることを事業所の特徴と捉え、看取り支援等に特に力を入れて取り組んでいる。
 事業所では「病院とは違うケアを行いたい」と考えており、職員は利用者とのかかわりを多く持つよう取り組んでいる。
 事業所の所在する地区は高齢者が多く、近所の方からの連絡で管理者が介護の手助けに行くようなことがある。地区の方達とは、地区全体で支え合う地区自主防災会を通じてつながりが深く、事業所は、災害時の支援体制のための要援護者支援班の一員にもなっている。防災士である地区会長は、運営推進会議にも参加し協力してくれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみつはま

(ユニット名) A,Bユニット

記入者(管理者)

氏名 宇野 明美

評価完了日 平成28年6月28日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、玄関食堂に掲げ、管理者、職員が共有し、日々実践に勤めている。	
			(外部評価) 「いつも一緒、同じ屋根の下で、心と心で行きましょう」と理念をつくり、玄関や居間等に掲示している。「母体医院が運営する医療的なグループホーム」であることを事業所の特徴と捉え、看取り支援等に特に力を入れて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 玄関には鍵をかけず、普通の家のとたずまいにしており、地域の方と違和感なく暮らしている。米とか味噌なども近くの店より注文しており、親しくしていただいている。隣、近所の方とも交流し仲良くしていただいている。	
			(外部評価) 事業所の所在する地区は高齢者が多く、近所の方からの連絡で管理者が介護の手助けに行くようなことがある。地区の方達とは、地区全体で支え合う地区自主防災会を通じてつながりが深く、事業所は、災害時の支援体制のための要援護者支援班の一員にもなっている。防災士である地区会長は、運営推進会議にも参加し協力してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などには、地域のかたがたに参加いただき、認知症についての理解を発信している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、ホームの現状、問題点についても報告させていただき、皆さんと話し合いを行っている。評価の方法についても皆さんにお知らせしており、結果についても報告し、ご意見、感想をいただいたものを、検討し、日々の支援に生かせるように努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、1階の居間で行っており、利用者、家族や民生委員が参加している。時には法人代表者も参加している。利用者や活動について状況を報告したり、議題を決めて話し合っており、虐待を議題に挙げた際には、地域の方から「事業所独自の行動指針を作ってはどうか」と提案があった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、市町村担当者のかたがたに出席していただき、ホームの現状、問題点について話させていただいている。ご意見、アドバイスもいただいている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターが行う地区の連絡会に参加している。運営推進会議で「成年後見制度」を議題に挙げた際には、市社協の方に松山市権利擁護センターの事業内容について説明してもらい、質疑応答を行って理解を深める機会となった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 自由にその人らしくを大切に日々の支援にあたっている。身体の拘束をして自由を奪うことがいかにしてはならないことが常に話し合っている。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せず、出入りが自由にできるようにしている。ベッドからの転落の危険がある方については、4点のベッド柵で対処するケースが複数ある。</p>	<p>拘束しないケアの実践に向けて、介護計画を立て記録しながら取り組みをすすめてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はあってはならないこと、勉強会などで常に話し合っており、職員が意識を共有し、実践に勤めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に、松山市社会福祉協議会の方を招き、制度の現状、活用についてお話していただいた。それについて確認し、話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用されようとするときの不安な気持ちを受け止め、何でも話していただけるように相談に乗っている。解約に関しても、遠慮は要らないこと利用される方の思いが1番であり、そのときは相談に乗ることお話ししている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、お便り、伝は似て、そのつど意見、要望をお聞きしている。運営推進会議には、家族の皆さんに参加を呼びかけ、できるだけ参加いただいている。そのとき外部の方とも意見交換している。 (外部評価) 毎月、管理者手書きの手紙を送付して、利用者個々の心身の状態や行事を報告している。昨年度は、家族会を行い、家族との親睦を深めた。母体医院を信頼しており、利用者の中には、入院していると思っている方があったり、家族の中には、見舞いに来ていると思っている方もあるようだ。食事介助に来る家族もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関する職員の思いはあり、代表者に伝え話し合いの機会を持っている。	
			(外部評価) ミーティングは月1回、一時間程度持っており、業務等について話し合っている。現在は時間の都合上、職員の勉強会を行う時間は持っていない。開設当初より勤務している職員も複数おり、管理者は意見を尊重することが、職員の働きやすさにつながっていると話していた。利用者の重度化に伴い、法人と職員体制や業務の分担等について話し合い、ケアにより時間を採れるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 通常の勤務以上に働く必要があった場合、時間外手当がついている。研修参加は、労働時間として取り扱ってもらっており、時間外になった場合、時間外手当がつくなどの、環境、条件の整備あり。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修を受ける機会を認めてくださっている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者や職員が、取り組むことに関して、理解し、認めてくださっている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安なこと、わからないこと、してほしいと思っていることを何でも話していただけるように努めている。サービス内容については、解りやすく説明し、本人の事に関しては、本人が話してくださる事に耳を傾けるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス内容を解りやすく説明している。困っている事、不安に思っている事を何でもお聞きし、安心していただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた段階で、他のサービスを受ける方法もあると思えば、そのサービスについてもお話し、ゆっくりと相談に乗っていただけるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 毎日の生活の積み重ねの中で、穏やかに信頼関係を築いている。お互い助け合って生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、お便り、電話にて、今の様子をお伝えし、執拗な相談をさせていただいている。行事にも参加していただくなどお互い支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人がたずねてこられたら、遠慮なく過ごしていただけるように配慮している。訪ねて行きたい方があれば出かけたり、連絡して会いに来ていただいたりしている。 (外部評価) 墓参り等、希望があれば、管理者が付き添って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	集団生活なので、揉め事もあるが、それは普通の家族でもあ ることでもあり、お互いがいたわりあって生活していけるように 支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談や支援に努めて いる	(自己評価)	入院が長引いて利用が終了しても、必要であれば、今後の 事について相談に乗ったり、支援している。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	(自己評価)	そのように努めている。日々の表情、言動より、その方の思 いを図るように気をつけている。心配な様子見られるようであ れば、そのつど検討している。
			(外部評価)	
				利用者に変化があれば、申し送り時に口頭で確認し合っ たり、申し送りノートや経過記録、業務日誌に記入し情報共有 している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	(自己評価)	日頃の会話などから、個々の生活や、趣味などを 知り、今の生活でもできる事は応用し、実践している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有 する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	現状の把握には日々検討し努めている。会議、申し 送りにて、職員間で共有するように努めている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			そのように取り組んでいる。健康管理、医療的管理については、主治医と相談し、支持もいただきながら介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			管理者は、職員や看護師等からの情報も採り入れ、介護計画を作成しており、6ヶ月ごとに見直しを行っている。	管理者は「職員の都合でなく、利用者に合わせる生活支援を実践していきたい」と話していた。利用者の情報をもとにした計画作成に取り組んでほしい。又、モニタリングの仕組み作りをすすめ、現状に即した計画の作成に取り組んでほしい。さらに、職員間で計画を共有するような取り組みにも工夫してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個人記録に記入し、職員間で情報を共有し実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			充分とは言えないかもしれないが、そのように取り組んでいる。(カットサービスの利用、受診の付き添い、緊急時対応、書類提出の代行など)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の行事に参加したり、本人がやってきた事を続けるよう支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
				入居時に、医師である代表者より、母体医院がかかりつけになる事を説明している。これまで診てもらった医療機関とも連携を取り、必要時、希望時、受診をする事も支援している。
			(外部評価)	
				週3回看護職員が勤務しており、薬の管理等、利用者の健康管理を行い、母体医院とのやりとりを行っている。母体医院の医師は、毎日のように往診に来て利用者の状態を把握しており、利用者や家族の安心につながっている。
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
				職場内の看護職員にその都度相談し、支援、実践している。
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
				そのように行っている。
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
				ホームでは看取りの支援を行っており、入居時にその事を説明させていただいている。看取り支援については、本人さんおよび家族さんの意向を大切に支援させていただいている。
			(外部評価)	
				状態変化時に「看取り支援確認書」を作成しており、家族からは「一日でも長く」「先生の言うとおりに」「最後まで治療してほしい」等の意向があるが、利用者本人の意向の記入については、現在は空欄のことが多い。事業所では「病院とは違うケアを行いたい」と考えており、職員は利用者とのかかわりを多く持つように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会などで取り上げ、実践力を身につけるように努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 町内会の自主防災組織があり、組織の一員となっている。災害時、お互いに助け合う組織作りができています。防災士である地区会長さんには、運営推進会議にも出席いただいております、その都度アドバイスもいただいております。 (外部評価) 昨年10月、運営推進会議時に消防署の立ち会いのもと日中の火災想定で避難訓練を行った。訓練後は、会議の参加者と意見交換を行い、利用者の居場所や状態が分かるホームの見取り図の作成、白煙の中での訓練について提案があった。地区の防災訓練には管理者が参加した。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) それぞれの個性があり難しい面もあるが、職員同士、入居者の情報を共有し、人格を尊重した支援に心がけている。 (外部評価) 職員は利用者に対してやさしく声をかけているが、呼び方等に気になるような場面もある。利用者は、職員の様子を見て「忙しそうだから悪いでしょ」と遠慮するようなこともあるようだ。席順については、利用者の状態によって、職員が間に入って対応する場合もある。	職員は、今後さらにコミュニケーションの取り方について勉強したいと話していた。職員の言葉かけや対応については、定期的に点検するような機会を作ってはどうだろうか。職員個々が自分自身で気付くような仕組み作りも期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表情の観察、声かけなどの働きかけにて、本人の希望が表すことができるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけそのようにしており、それぞれの方のペースを大切にと支援に当たっているが、今の職員体制では、困難なところも見られる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望を聞いて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 皆さん食事を楽しみにされている。それぞれの方の好みも取り入れた食事を用意させていただいている。職員は、利用者の方と一緒に食事を取っている。	
			(外部評価) 昼、夕食は業者から食事が届き、朝食とご飯、味噌汁は手作りしており、利用者の状態に合わせて職員が食べやすい形態にしている。現在食事の時間は、朝食は6時、昼食は11時、夕食は5時からとなっており、夜間お腹がすくような利用者にはおやつ等を出している。冷凍等して食材を保存しておき、代替えにする場合もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) そのように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝、夕の口うけケアを実施している。他は、必要時行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>個人の排泄パターンを把握して、状態を観察しながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>便意のみあり、夜間もトイレで排泄できるよう支援しているケースがある。重度の方が多く、居室には個々の排泄用品を備えている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分補給や、食材などに気を配り、支援している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりゆっくりと入浴していただけるようにしているが、介護度の高い方が多くなり、今の浴室環境では、危険な事もある。 シャワー浴、清拭対応もある。体調に不安のある方については、主治医に相談の上支援をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2階のユニットの浴室は構造上使いにくいいため、1階の浴室を両ユニットで使用している。寝たきりの利用者が複数おり、利用者の半数以上、清拭やシャワー浴で支援している。脱衣所の壁面には、入浴する方の名前を書いた一覧表を掛けていた。</p>	<p>重度化しても体調をみながら、入浴を楽しむことができるような支援はできないだろうか。家族とも相談しながら取り組みをすすめてほしい。職員は、水虫対策として足浴等を支援したいと話していた。</p>
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>そのように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) そのように努めている。症状の変化があれば、看護師、主治医に報告、相談している。服薬管理は、看護師が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の楽しみを見つけ、支援するように心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に沿うように心がけている。 現在は、身体面、精神面でも、自由が利かない方が多くなり、その支援は限られてきている。	
			(外部評価) 三津の花火大会等、管理者が車いすを押して外出を支援するケースがある。職員が付き添って歯科受診したり、近所を散歩して顔なじみの店主とおしゃべりできるよう、支援するケースがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望のある方は、そのようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) そのようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 建物自体は北欧のやさしい色使いで、刺激が少ないものである。室内には、季節の花を飾り、季節感を取り入れている。みなが過ごすところや廊下には、イスや、ソファを置いている。</p> <p>(外部評価) 玄関前に花を植えている。玄関内には長椅子を置き、利用者が座って靴を着脱できるようにしている。ユニットは、メジネット型になっており、両ユニットの行き来がある。テーブル席や窓際にソファも置いており、窓からはとなりの庭や緑が見える。ユニットごとに七夕の笹飾りを作って、職員が利用者の代筆をして短冊に願いを書いていた。定期的に職員が季節の花を活けている。居間には職員の業務連絡等の掲示物が複数見られた。</p>	<p>利用者の居心地の良さという観点から、共用空間づくりに工夫できることはないか、話し合いを行ってはどうだろうか。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 皆さん、自由に好きな場所で過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) それぞれ担当者を置き、日々清潔に、落ち着いて過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、ほとんどの方がベッドで横になって過ごしていた。居間に活けている花を寝たきりの利用者の居室に活かせるようなこともある。換気をしたり、利用者によっては一緒にシーツ交換を行うようなこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 安全に、また、安心してすごせるように工夫、努力している。</p>	